

若葉町樹林地に雑木林塾がやってきました!

定例の12月10日(第2日曜)の活動は雑木林塾のフィールド体験ということで若葉町の参加者と合同で、シュロ、アオキ、アズマネザサなどの下草刈りを事務局関係者含め25名前後の参加で行いました。今回の塾の講師は小池弘志氏(都立園芸高校勤務)でここ第3緑地の公園整備計画を緑と公園課から伺ったのち、樹林地の下草と土壌の状態の話に始まり、下草の処理の仕方から道具の手入れの仕方まで幅広く教えていただきました。

[古道、大坂の幅員が1mほど広がった!]

常緑樹主にシラカシとスギの高木に遷移した暗い樹林地は、古道大坂の面影もないゴミの不法投棄や犯罪の温床と化していました。管理作業が始まった昨年より、大坂側のヤブを整理して見通しのきく明るい樹林地の夢を描いていましたが、今回の雑木林塾との合同作業で実現への手ごたえが感じられました。参加者および関係者の皆さん、ありがとう。

[次回の1月も合同でフィールド体験だ!]

次回の1月14日(第2日曜)も雑木林塾と合同でのフィールド体験です。国分寺崖線の下の広い平地の下草刈りのほか、枯れたスギの伐採の体験を予定しています。また、新年を迎えることもあり来る年の管理作業の安全を山に祈るとともに、塾生の皆さんにはヒサカキの名札を自作していただくことも考えています。皆さん、よろしく。(中原)



見違えるようにスッキリ!



小池先生からレクチャーを受ける

調布の自然

植物編

—イイギリ—

毎年11月頃に房状の実を付け、その真っ赤な実がクリスマス気分を盛り上げてくれるイイギリ。東アジア特産の樹木だそうで、葉の形が桐に似て、ご飯を包むのに使ったのでこの名が付いたという。

仙川の駅前が今のようにきれいになる前、(7~8年前か)駅南側、桜の大木のすぐ先に大きなイイギリの樹が数本あった。すっかり葉を落した樹に真っ赤な実が垂れ下がっている光景は、商店街が何故か一層活気付いて見えるのだった。近頃は収益を上げるには建築面積だけで無く、その場所のイメージに価値があるという事はよく知られるところ。実際、品川のオフィス街にある小さな森や防衛庁跡地に沢山の樹木が植樹された事はその街の価値を高めている。崖線樹林も調布の大事な価値、1本1本を大切に残したい。

今年の春も神代植物園裏のグリーンギャラリー

にはイイギリの可愛い花が沢山落ちていた。ところがこの時期、赤い実を付けたあの光景が見当たらない。知り合いに「今年は見かけないね」と言うと、彼女が言うには「緑色になっているところは見たのだけど、その後赤くなったのは見ていないので鳥が食べちゃったのかもしれない」とのこと。先日訪れた目黒の「林試の森」でも赤い実は見かけなかった。「見たよ」と言う方もいたけれど、これは一体どういうことかしら? 今年実が熟するのが早かったのか? カニ山のイイギリ、来年は必ず見たい。(NK)



左のような実がなるはずだが、今年右のような落ち葉を見ただけ

田んぼの学校

「12月3日は堆肥作りと卒業式」

この日は天候に恵まれ、かに山で堆肥作り用の落ち葉かきをしました。午前中に集めた落ち葉の量は約300kg以上、これに米ぬかや鶏糞を混ぜ、水をかけて醗酵させます。堆肥は醗酵が始まると中の温度は60度以上にもなり、湯気が立ち昇ります。定期的にかき混ぜて空気を送りさらに熟成を促します。完熟するには1年以上かかりますが、やがて真っ黒で栄養豊富な腐葉土となり、これを田んぼの肥料として来年の田起こしのときに田んぼにすきこみます。その間、堆肥が微生物を始めカプトムシなどのいろいろな生き物たちの住処になっていることは、もう皆さんご存知の通りです。

午後からは卒業式。途中、お米を食べる食生活と歯や健康についての講義を交え、最後に生徒の皆さんに卒業レポートを発表してもらいました。今年は水を汚さない工夫やゴミを出さない努力などが語られました。子どもたちの多くは、田んぼで泥まみれになるのが苦手なようでしたが、夏祭りや収穫祭の餅つきなど、楽しかったことも一杯あったようです。みなさん卒業おめでとうございます。とても良く体験学習に参加していただき、ありがとうございました。前回も書きましたが4月の始業式までに、まだいろいろと参加のお誘いがあります。皆さんこれからもよろしく願います。

(田んぼの学校 こんどう)



かに山で落ち葉集め



照れながら感想文発表

ちょうふ環境市民懇談会 第41回 運営会議 報告

報告事項

- ・11/23～26に行われた凸凹山「森の展覧会」に延べ100人くらいの参加・来訪者があった。緑と公園課の方にも新しい公園のあり方を見てもらえた。これまで「布田崖線緑地を考える市民の会」という、緑と公園課主催のワークショップ形式の会だったが、これを基に現在の世話人を中心とした市民主体の任意団体、「凸凹森の会」として再スタートの予定。
- ・環境モニターの来年度について、年8回程度でどうかという意見をいただいたので、その方向で環境保全課が企画予定。自主的な活動に移行するためにも、現在モニターに参加されている方を「サポーター」という形で位置づけ、「サポーター」が中心となって環境モニター活動、そぞろ歩きの企画運営をお願いしようと考えている(こどもエコクラブの「サポーター」と同様な考え方)。
- ・雑木林塾市民交流会
講演「危険な生き物とのつきあい方」の講師は、倉持武彦氏に決定した。
当日のタイムテーブル等が決まり次第、関係団体に案内を出す。

協議事項

- ・環境市民懇談会全体会は3/4の雑木林塾の交流会と同日に行い、その場で運営委員の選出も行う。参加者全員で軽食をとるタイムスケジュールを決定した。

12/17(日) はお楽しみ会。雨で濡れた落ち葉をクッションに、七輪でししゃも・おもちを焼きトン汁で温まりました。マテバシクッキーを味わい、火を囲んでの樹林地の今後について意見交換は和やかなひと時でした。(安部)

里山の保全 12月

人間樹林の会

12/9(日) 参加者：子ども20人、親4人、
児童館職員2人、樹林の会から6人

恒例になった東部児童館との交流事業「自然に親しむ会」には20人の子どもと4人の親が参加しました。雨のため、落ち葉掻きはできませんでしたが樹林地でマテバシイのどんぐり拾いをしました。

「マテバシイのクッキー作り」

小麦粉とマテバシイの粉をこね、クリスマスツリーのオーナメントや雪だるま、ハートなど思い思いの形を作っていました。クッキーが焼きあがる間に、絵を描いたり樹林地で拾ってきた葉っぱや実をつかったのクラージュも楽しみました。自分で作ったクッキーを食べている子どもたちの笑顔や夢中になっている姿は輝いていました。



米の取れる公園、川の流れる学校があった！

視察会報告「豊かな緑・水・景観を守り育てるための取組検討会」-旧「調布の里山・水辺再生活用事業検討会」

さる12月4日、東京日野市の先進事例を市民委員と市担当職員で見学してきました。

まずは、市役所で職員の方（日野市緑と清流課）のレクチャー、新しい試みを切り開いてきた確かな経験と自信、そして提供資料の豊かさに感服。その後、現地見学。

日野市は北に多摩川本流、南に多摩川最大支流の浅川が流れ、かつてその水辺に広大な水田と先人が築いてきた網目状の水路のある豊かな水辺のまちだ。それが御多分にもれず住宅地の拡大で危機に。やはり危機が始まりだ。様々な事業を立ち上げ、多くの労力や知恵を行政は振り向けた。また無数の市民や子供らも関わっている。その成果は魅力的だった。小学校敷地に豊かな自然の小川（水路）が流れ、普通の街区公園に立派なお米の取れそうな田んぼを育てていた。

このトップランナーの情熱と知恵のシャワーと、その成果の水辺の自然が放つ魅力に触れたことは、私たちの今後の検討作業を支えるものになるでしょう。委員の方々、事務局職員の方々ががんばりましょう。

そして、市民の皆さんに「水辺をたどれば、人と自然を愛する人に出会えますよ」とお伝えしたい。（小林冬樹）



“校地内”の小川(用水路)市立潤徳小



お米の取れる街区公園 よそう森公園

12/12(火)第3回「豊かな...検討会」

上記見学参加者からの感想を話し合った後、深大寺・佐須地区モデル事業の検討を行った。ワークショップ形式で抽出されたプランを整理するため、優先度と実現性の高さをハードとソフトの両面で検討した。「水路の開渠」「水田の保全」「里山・水辺の楽校」な

ど16ほどのキーワードが挙げられた。キーワードに関しメンバーが共通の認識を持てるよう具体的検討をするワーキンググループを招集することとし、12/25にワーキングを行い、その後1/15に第4回検討会を開くことが決まった。

里山の保全 ~市民のうごき 12月

カニ山の会

12/9(土)小雨 参加者6名



朝から雨模様であったが、懇親会ということで作業が無いため、雨天決行となった。先月も雨のため活動中止となっていたので、久しぶりのカニ山はすっかり落葉もすすみ、季節の移り変わりが感じられた。



かまどに火を熾すため、「薪の表面は濡れていても中はそれほどでも無い」ことや「表面にナタでささくれを作ることで着火しやすい」ことを教わる。ブルーシートをテント代わりに張り、休憩場所を確保。メインイベント

は燻製と日本酒の利き酒。小さくて簡単な道具でもおいしい燻製ができて感激。日本酒のウンチクに耳を傾け、冷やではあるが鍋をつまみに飲み、すっかり体も温まったのだった。(NK)

環境モニター

12/2(土)参加者7+3名

たづくりにて来年度の活動について簡単に相談した後、図鑑作成の続き。

今迄撮り溜めた写真を図鑑風に当てはめたものをプリントして校正。他の候補の写真と置き換えたり、良い写真があるものは植物そのものを変更したり、コメントで抜けているところはメンバー内で振り分けて次回までの宿題にした。1月の活動はお休みの予定だったが、メンバーの希望により自主的に開催し、多摩川で野鳥の観察と図鑑作成の続きを行う。(NK)

懇親会を兼ね、皆で昼食



市民活動カレンダー & おしらせ

全ての会でメンバー随時募集中!

環境モニター

2/3 (土) 10:00~12:00

集合場所: たづくり 301 会議室

内容: 今年度の活動振り返りと来年度の活動の仕方について話し合い

持ち物: 筆記用具等

市内の自然環境調べや「そぞろ歩き」案内を行っています。

問合せ: 環境保全課 042-481-7086

カニ山の会

1/13 (土) 10:00~12:00

集合場所: 深大寺自然広場、野草園横

内容: 2月に行う不要樹木伐採について

定例活動日: 毎月第2土曜に東樹林の保全活動を行っています。参加希望の方は直接集合場所へおいで下さい。(年会費500円+保険料)

問合せ: 環境保全課 042-481-7086

若葉町3丁目第3緑地・保全活動

1/14(日) 10:00~12:00

集合場所: 入間地域福祉センター

内容: 12月に続き雑木林塾と合同での管理作業第2日曜を活動日としています。

問合せ: 緑と公園課 042-481-7083

入間・樹林の会

1/21 (日) 9:30~12:30

内容: 方形枠調査・落ち葉かき等の樹林保全作業

集合場所: いずれも入間地域福祉センター

原則毎月第3日曜に活動しています。

問合せ: 環境保全課 042-481-7086

凸凹森の会

新たな名称で市民活動の自主グループとして再出発します

1/28 (日) 10:00~12:00

内容: 梅の剪定

原則第4日曜に活動しています。

「ちょうふ環境市民懇談会」は、調布の自然環境を市民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復していくために設立されました。2001年から保全活動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、提言などの活動をしています。ぜひご参加ください。

環境保全課の窓



緑の質って? 何故,
深大寺・佐須が大事なの?

崖線と谷戸ってどんなところ?

etc. 山と海に近い瀬戸内で育った

にもかかわらず、自然環境に疎い私が環境保全課に配属になって、はや2年になろうとしています。野川の細田橋から深大寺までの水路沿いを何度となく歩き、「そうだ、小さいとき水遊びが度を越して用水の堰を取り、隣の田んぼのおじいちゃんに叱られた。脱穀のときコンバインが面白くて見とれてしまい、セーターが薫くずだらけになって母に叱られた。刈り取りあとの藁の家で鬼ごっこ、春のレンゲつみ、刈り株で足を怪我したっけ...」いっばいの思い出がよみがえってきました。今は、もう本当に少なくなりましたが、子どもたちが、こうした里山の体験を大人になって思い出せる調布であってほしいと願うとともに、この里山を作り出している営みを続けることのご苦勞があつてこそと思うこのごろです。
(仁藤美保)

12/20 野草園横でホテルの飼育ボランティアをする方々。(水槽浄化のための袋を作成している) ホテルが舞うのは一時ですが、1年を通してこういう地道な仕事があるのですね。



会議日程

ちょうふ環境市民懇談会・運営会議

1/9 (火) 18:30~20:30

たづくり 301 会議室

内容: 環境市民懇談会5年間の歩み

この運営会議にはどなたでも参加できます。

資料準備のため事前に環境保全課に連絡下さい。

編集後記

「リースにを使って」と知り合いの方から木の実や葉っぱをどさり届けていただいた。ノイバラ・ヘクソカズラ・ピラカンサ、そしてオレンジ色のカラスウリ。これは何だろう? 茶色の毛に覆われた実。次回会ったら聞いてみよう。リースの材料もクズくらいなら遠慮なく採れるけれど、数少ない物は気が引ける。そのうち調布では庭のある人しか材料の調達ができなくなる、なんてことにならないように。(NK)

ちょうふ環境市民懇談会

連絡先: 調布市環境保全課 tel 042-481-7086

E-mail: kankyou@w2.city.chofu.tokyo.jp

~ 調布市ホームページでカラー版がごらんいただけます ~

市公式HP [くらしのガイド](#) 環境 環境学習 自然だより